

(19)日本国特許庁（J P）

(12) **公開特許公報** (A) (11)特許出願公開番号

特開2003－135377

(P2003－135377A)

(43)公開日 平成15年5月13日(2003.5.13)

(51)Int.Cl⁷

識別記号

F I

テーマコード^{*} (参考)

A 6 1 B 1/00

300

A 6 1 B 1/00

300

R

4 C 0 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 10 L (全 4 数)

(21)出願番号 特願2001－333745(P2001－333745)

(22)出願日 平成13年10月31日(2001.10.31)

(71)出願人 000000527

ペンタックス株式会社

東京都板橋区前野町2丁目36番9号

(72)発明者 松野 真一

東京都板橋区前野町2丁目36番9号 旭光学

工業株式会社内

(74)代理人 100091317

弁理士 三井 和彦

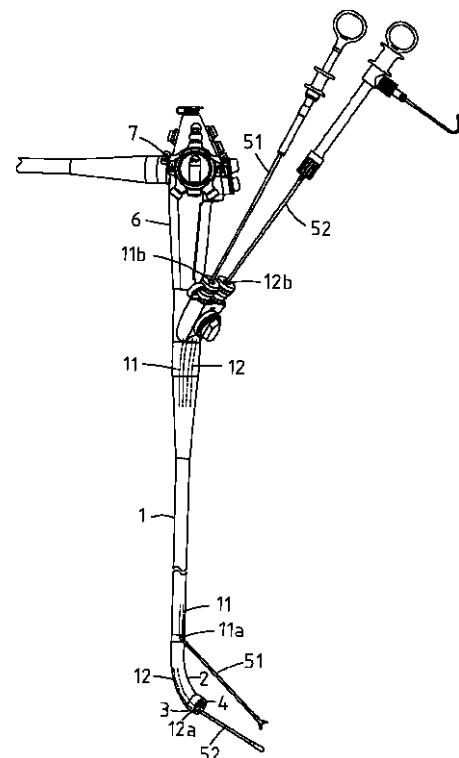
Fターム(参考) 4C061 FF43 HH21

(54)【発明の名称】 二チャンネル内視鏡

(57)【要約】

【課題】二つの処置具を同時に用いてマーキング処置等を正確かつ容易に行うことができる二チャンネル内視鏡を提供すること。

【解決手段】遠隔操作によって屈曲する湾曲部2が挿入部の先端付近に設けられて、湾曲部2の先端に連結された先端部本体3に観察窓4が配置され、処置具を案内するための二つの処置具挿通路11, 12が挿入部内に配置された二チャンネル内視鏡において、二つの処置具挿通路11, 12の一方の出口12aを先端部本体3に配置し、他方の出口11aを湾曲部2の後端付近に配置した。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】遠隔操作によって屈曲する湾曲部が挿入部の先端付近に設けられて、上記湾曲部の先端に連結された先端部本体に観察窓が配置され、処置具を案内するための二つの処置具挿通路が上記挿入部内に配置された二チャンネル内視鏡において、上記二つの処置具挿通路の一方の出口を上記先端部本体に配置し、他方の出口を上記湾曲部の後端付近に配置したことを特徴とする二チャンネル内視鏡。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、二つの処置具挿通路が挿入部内に配置された二チャンネル内視鏡に関する。

【0002】

【従来の技術】内視鏡は一般に、遠隔操作によって屈曲する湾曲部が挿入部の先端付近に設けられて、湾曲部の先端に連結された先端部本体に観察窓が配置され、二チャンネル内視鏡の場合には、二つの処置具挿通路の出口が先端部本体に並んで配置されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】図 4 は、上述のような従来の二チャンネル内視鏡によって、体内の切除すべき病変部 100 の根部にマーキング処置を行っている様子を示しており、1 は挿入部可撓管、2 は湾曲部、3 は先端部本体、4 は観察窓、5 は照明窓、11a と 12a は各々処置具出口である。

【0004】マーキング処置は、一方の処置具出口 11a から突出させた把持鉗子 51 で病変部 100 をできるだけ持ち上げた状態で、他方の処置具出口 12a から突出させたヒートプローブ 52 等で、病変部 100 の根部にマーク 101 をつけるようにして行われる。

【0005】しかし、一方の処置具出口 11a から突出させた把持鉗子 51 で病変部 100 をできるだけ持ち上げると、必然的に他方の処置具出口 12a から突出されるヒートプローブ 52 の突出長が長くなるので、観察窓 4 がマーク 101 を付すべき位置から遠く離れてしまい、正確な位置にマーキングをするのが困難になる場合がある。

【0006】そこで本発明は、二つの処置具を同時に用いてマーキング処置等を正確かつ容易に行うことができる二チャンネル内視鏡を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、本発明の二チャンネル内視鏡は、遠隔操作によって屈曲する湾曲部が挿入部の先端付近に設けられて、湾曲部の先端に連結された先端部本体に観察窓が配置され、処置具を案内するための二つの処置具挿通路が挿入部内に配置された二チャンネル内視鏡において、二つの処置具挿通路の一方の出口を先端部本体に配置し、他方の出

*口を湾曲部の後端付近に配置したものである。

【0008】

【発明の実施の形態】図面を参照して本発明の実施例を説明する。図 1 は二チャンネル内視鏡の全体構成を示し、図 2 はその挿入部の先端部分を示している。

【0009】挿入部可撓管 1 の先端には、操作部 6 からの遠隔操作によって屈曲する湾曲部 2 が設けられ、観察窓 4 等が配置された先端部本体 3 が湾曲部 2 の先端に連結されている。5 は照明窓、7 は湾曲操作ノブである。

10 【0010】挿入部可撓管 1 内には、処置具類を案内するための例えば四フッ化エチレン樹脂チューブ等からなる二本の処置具挿通路 11、12 が並んで挿通配置されている。

【0011】そして第 1 の処置具挿通路 11 の出口である第 1 の処置具出口 11a は挿入部可撓管 1 と湾曲部 2 との連結部付近に配置され、第 2 の処置具挿通路 12 の出口である第 2 の処置具出口 12a は観察窓 4 と並んで先端部本体 3 に配置されている。

20 【0012】第 1 と第 2 の処置具挿通路 11、12 の入口 11b、12b は、共に挿入部可撓管 1 と操作部 6 との連結部付近に斜め上方に向けて配置されており、第 1 の処置具挿通路 11 の入口 11b から挿入された処置具（把持鉗子）51 が第 1 の処置具出口 11a から突出され、第 2 の処置具挿通路 12 の入口 12b から挿入された処置具（ヒートプローブ）52 が第 2 の処置具出口 12a から突出される。

【0013】このような構成により、図 3 に示されるように、第 1 の処置具出口 11a から突出させた把持鉗子 51 により病変部 100 を摘んでできるだけ大きく持ち上げた時、第 2 の処置具出口 12a とそれに並んで配置されている観察窓 4 を、病変部 100 の根部に対して適度の距離に位置させることができる。

【0014】その結果、第 2 の処置具出口 12a から突出させたヒートプローブ 52 によって、病変部 100 の根部の正確な位置に容易にマーク 101 を付すことができる。

【0015】なお、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明をマーキング以外の各種の内視鏡的処置に適用して、二つの処置具を同時に使用する際の処置操作を容易に行うことができる。

【0016】

【発明の効果】本発明によれば、二つの処置具挿通路の一方の出口を先端部本体に配置し、他方の出口を湾曲部の後端付近に配置したことにより、二つの処置具を同時に用いてマーキング処置等を適切な距離から正確かつ容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施例の二チャンネル内視鏡の全体構成を示す斜視図である。

【図 2】本発明の実施例の二チャンネル内視鏡の挿入部

の先端部分の斜視図である。

【図3】本発明の実施例の二チャンネル内視鏡によるマーキング処置の状態を示す略示図である。

【図4】従来の二チャンネル内視鏡によるマーキング処置の状態を示す略示図である。

【符号の説明】

1 挿入部可撓管

2 湾曲部

*3 先端部本体

4 観察窓

11, 12 処置具挿通路

11a, 12a 処置具出口

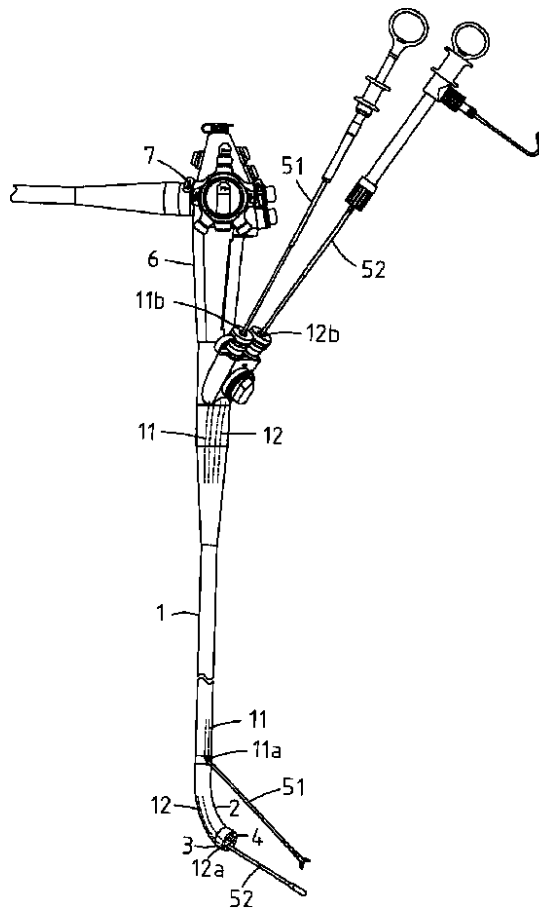
11b, 12b 入口

51 処置具（把持鉗子）

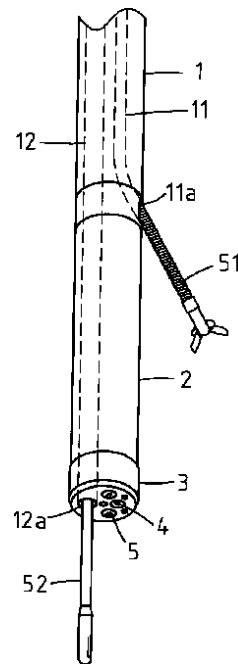
52 処置具（ヒートプローブ）

* 101 マーク

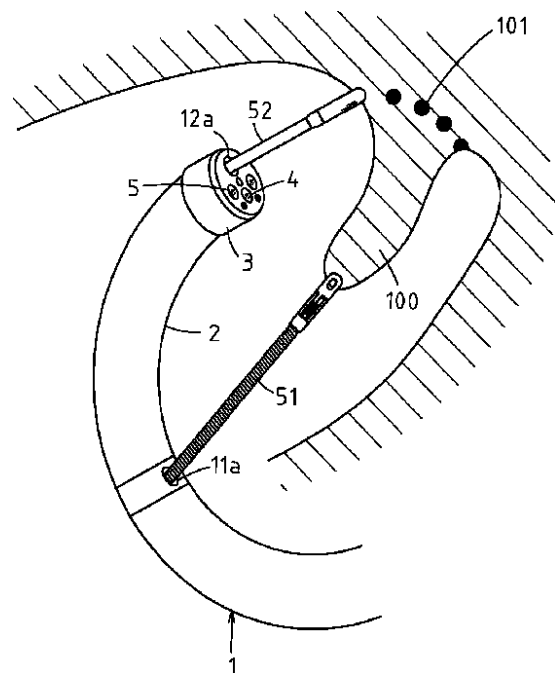
【図1】



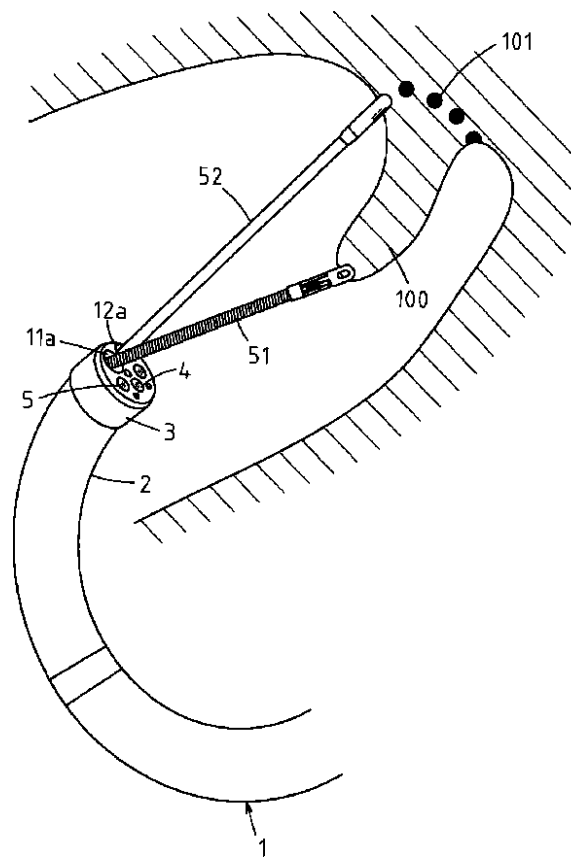
【図2】



【図3】



【図4】



专利名称(译)	双通道内窥镜		
公开(公告)号	JP2003135377A	公开(公告)日	2003-05-13
申请号	JP2001333745	申请日	2001-10-31
[标]申请(专利权)人(译)	旭光学工业株式会社		
申请(专利权)人(译)	宾得株式会社		
[标]发明人	松野真一		
发明人	松野 真一		
IPC分类号	A61B1/00		
FI分类号	A61B1/00.300.R A61B1/018.511 A61B1/018.513		
F-TERM分类号	4C061/FF43 4C061/HH21 4C161/FF43 4C161/HH21		
代理人(译)	三井和彦		
其他公开文献	JP3992134B2		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：通过同时使用两个治疗工具来提供能够准确且容易地执行标记处理等的双通道内窥镜。观察窗（4）设置在连接到弯曲部分（2）的远端的远端部分主体（3）中，通过遥控弯曲的弯曲部分（2）设置在插入部分的远端附近在两个治疗仪器插入通道11,12设置在插入部分中的双通道内窥镜中，两个治疗仪器插入通道11,12的一个出口12a设置在远端部分主体3中，另一个出口11a设置在弯曲部分2的后端附近。

